<面談のお知らせの文例その2>ケース1その2

その1でお知らせしたのですが、なかなか1回目の面談が実現せず、1週間がたってしまいました。

登校できない理由についてもう一度考え直し、違った原因かもしれないという推測 をたてて新しく手紙を送りました。

ポイントはアセスメントについてもう一度説明し、本人の強いところを活かせる環境であることを強調してみました。

●年●組 ●●●● 様

平成26年5月1日

こんにちは、元気ですか。

先日は拳響ルームまで来てくれてありがとうございました。お話ができて良かったです。

学部ルームにお認いの手紙を書いたときに、人にはいろいろなタイプ(血液型などね)があり、さらに人の能にもいろいろなタイプ(左羽きだったり、右羽きだったりね)があるということはおつだえしましたね。

●●智が影をしてくれた中から先生が感じたこと、その結果●●君に必要だと思われることを求とめてみました。

昨年の放送委員会への取り組みなどをお開きして、●●君はまじめで正確な努力家だと 思い家した。好きなことには一生懸命とりくむことができ、難しい言葉を良く知っている ことからも興味のある事に対して、覚えることも標度ですね。

また制限の登校に関してのやりとりから、自分が納得したルールであれば人一倍まじめ に守ろうとする航気さがあります。

でも自分の気持ち (図っていることやいやな気持になったことなど) を言葉にして相手 に伝えたり、相談したりしてトラブルを解決することが苦手な様子が伝わって言ました。

明蓮館高校の先生とお話をした結果からも●●君の脳のタイプとして

●得意なこと

- 視覚的な(目で見た情報)てがかりを使って、全体から部分へと考える能力が 高いです。
- ・推論し、その結果を総合的に考える能力があります。
- 読む能力は中2相当に力があります。
- ・文章を構成することが適切にできます。

●苦手なこと

- ・ロ頭で数えられたこと(話し言葉)や指示を聞き取って理解することが苦手。
- 数字・計算を必要とする課題は苦手です。
- ・漢字を全体でとらえて記憶したり、書いたりすることが苦手です。

ということが分かりました。

得意なことを伸ばして、苦手なことをカパーしていく工夫が必要です。 これらは脳のタイプの問題なので●●営の努力で解消することではありませんし、解消するよりはうまくつきあっていくことが大切です。

この脳の特徴を持っている人は思いのほか多いのですが、全体からみると少ない割合です。 左利きの人の割合くらいでしょうか。(クラスに 2~3 人程度)

そのため、特別な対応の様に感じるかもしれませんが、脳の特徴を生かす工夫・脳の特徴 のために困ったことが記言ない工夫を知ることで、●●署も周りの人たちも幸せになることがで言ます。

(そのように変わっていった人たちがたくさんいます。)

学習ルームは学習をしながら●●君がより生きていきやすくなるための工夫についても 考えていきませんか。

まずは第1段階として

18:15~19:00 学習ルーム

※お母さんが都合がいいときに車で送ってもらえる日でいいですよ。 来れる日にお母さんに電話してもらってください。 ※もちろん! 最終下校を過ぎているので私服で OK!!

その後、定期的に夜の時間帯で登校してくるようになりました。ある日、昼の時間 帯に来たかと思うと、そのまま自分のクラスで生活をすると言ってクラスに登校する ようになりました。

その後クラスでトラブルがあり、夏休み以降は学習ルームでの登校となっています。 自己理解を進めていくうちに、自分から自分の特性について考えるようになったので、 支援機関と通級を併用して、さらに自己理解と自己肯定感を育むための支援を継続し ています。

<面談のお知らせの文例その3>ケース2

塾へ行ったり、友達と家であったりすることはできるが、学校の敷地の中に足を 踏み入れることに抵抗があり、登校できません。ケース1の生徒と同じお知らせを最 初に出しましたが、登校につながらず、その後は継続して担任の先生を中心に、家庭 訪問とお便りでつながっています。

○年0祖 ○○○○ 様

平成26年7月17日

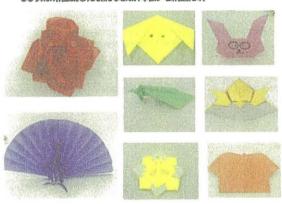
こんにちは、

学習机一ムに通ってきている3年生が、どうとうせみが鳴いによ、と今日教えてくれ命した。 いよいよ来週から運体みですね。 ダンスや意、元気に通っていきすか。

学習ルームも意味おに入りますが、長い特別の後、整核するのが辛くなってしまうのか心配だという人もいたり、更休かだからこと勉強しに行きます。という人がいたいで、いつでもやっています。 今日は行ってみてもいいかなおという日かされば連絡ください、待ってます!

●●ちゃんの折り紙の作品を見て、(保健室の前とか問書室に飾っております)「この子すごいんだより」と言って影響されてみんなで添り紙をやってみました。

2年生の子に見せておけたいんだよわと言ったところ、3年生の子がデジカメで辿ってくれました。 ●●ちゃんの作品にはとっても及び幸せんが、学習ルーム作品属です。



良い更休みを過ごしてください。

学習ルーム 土屋 由紀子

←●●さんの得意な折り紙学習ルームの3年生が折りました。

②担任・当該学年・教科担当教員からの聞き取り

保護者・本人からの聞き取りを終えて、関係する教員に、問題点として上がっている事項や毎日の学校生活の中での問題点などを聞き取ります。家庭での様子と学校での様子にさが見られる場合も多く、そのギャップから本人が学校で抱えている困ったことを推測できることもよくあります。関わっている人から情報を集めることが大切です。

(2) 個別の指導計画

個々の聞き取りにより問題点を把握し、個別の教育支援計画を作成すると同時に、個別の指導計画を作成しました。学習における目標と手立て、生活上の目標と手立ての2点に関して目標を設定しています。目標の設定と最終的な目標の達成までは次のようなイメージです。

最終目標

1

例) 職員室に自分から提出物を出しに行くことができる

目標達成までのスモールステップ

- 1学習ルームに入ってきた先生に自分から挨拶できる。
- 2廊下ですれちがった大人に自分から挨拶することができる。
- 3朝や帰りに保健室や技術員室等に自分から入って挨拶できる。
- 4学習ルーム担当の先生と職員室の前まで行き、 職員室の先生が出てくるまで待ち、自分で 渡すことができる。
- 5学習ルーム担当の先生と職員室に一緒に入る ことができる。

スモールステップのどのあたりにいるか、今何が目標なのかをサポート担当の先生は、 声掛けのときや小面談の際に、本人と確認をします。その時、本人に自分の振り返りも行い、達成しようとする気持ちを継続させていきます。

全職員に生徒情報を寄せてもらうために、書いてもらっている情報シートには、それぞれが今目標としていることについて記載して回しています。全職員にひとりひとりの目標を確認してもらい、目標を達成している瞬間に立ち会った先生には確実に本人をほめてもらえる場面を作るためです。

●個別の指導計画(今年度学習ルームで使用しているもの)

個別指導計画 (学習ルーム)

氏名		0000	经别		学年	年	組
連絡先							-
	数料		習得状況			支援の方法	
	•===	ワーク A級			◆間違えた漢 零すことが例 →射音を切り	iしい)難し、問題	のすぐ横に持
	• 数学	• •• FUN A	200		ってこれるよ	さらにする。	
学習状況	・英語						
	• 理科						
	· 社会						
	その他						
	長期目標						
生活目標	短期目標	・民期目標をスモ	ールステップ	こして記載	張り返りの	状况	
作成皆		小 原	由紀子	作成日	年	月	8

●情報シート

情報収集シート(案)	月	B	まで	に回覧	おねか	いしま	र्ग!!
00-00-	\rightarrow	\rightarrow	\rightarrow	\rightarrow	\rightarrow	\rightarrow	※回覧したらOしてください。

名前	目標	毎日の生活の中で気づいたこと
00	先生と会ったら自分からあいさつをする。	
00		
00		
00		
00		
00		
	00	先生と会ったら自分からあいさつをする。のののの

提出物情報

教料の提出物・作品への取り組みなどがあればご記入ください。

学年	クラスなど	教科	内容	提出期限
	3 10 4	3	7-	

5 教育課程

学習ルームを利用している生徒の状況は、普通級及び個別支援学級と多岐にわたっています。

- 普通級に在籍し、不登校の生徒(毎日の支援)
- 普通級に在籍し、通級・学習ルーム併用(必要時数の支援)
- 個別支援級に在籍し、学習支援を必要とする生徒(必要時数の支援)
- 普通級に在籍し、基礎的な学力の確立のために学習支援を必要とする生徒 (必要期間・時数の支援)

個別支援級に在籍をしている生徒については、個別支援級の週時程により、交流級での 学習の基本的な理解の確認を行う。教育課程の根拠は学習指導要領によるものです。

普通級に在籍する生徒に関しては、在籍級の学習内容と関連付けながら、ひとりひとりの実態の把握を慎重に行い、自閉症スペクトラムなど支援を要する原因が考えられる場合には、学力支援と並行して、特性を活かすための学習支援も行っていく必要があります。

教育課程の根拠については、通級指導級を利用する生徒の教育課程を参考に、全日学習ルームで生活する生徒もいることから、個々の状況にあわせた教育課程を編成しています。 横浜市教育委員会の「自閉症の手引き II 」の特別支援教室活用についての配慮事項にも「本人の負担感や不安の無いように、活用時間や内容について配慮します。」とあります。これも根拠の一つとなっています。

普通級に在籍し、不登校の生徒(中3)の週時程表

月	火	水	木	金
国語・のびじゃん	英語・3年	数学・復習	英語•復習	英語・3年
理科	国語・3年	国語・のびじゃん	社会	数学•復習
英語•復習	社会	英語・復習	国語・3年	理科
数学・3年	数学•復習	社会	数学•3年	国語・のびじゃん

※教科については変更あり

- ・ 普通級に在籍し、通級・学習ルームを併用
- ・個別支援級に在籍し、学習ルームを利用

週に1時間~3時間程度決まったスライド番号で(本校はスライド番号での時間割)利用する。利用時間数は個人によって異なる。必要時数は学習支援会議で決定、保護者・本人の同意を得る。

普通級に在籍し、基礎的な学力の確立のために学習ルームを利用

長期休み(夏休みなど)を利用して、学習支援を行う。夏休み中は部活の時間の前後に するなどすると、利用率が上がる。

6 教材

①教材

本来は一人ひとりにあわせて自作していきたいところですが、今年度はその余裕なく始めましたので、さまざまなニーズにあわせた市販教材を用意し、活用しています。

現在は一つの教材を1~2名ですが、さらに複数で利用するには自作の教材を用意する 必要があります。

としているのである。			
	基礎 ———		→ 応用
国語	のびのびじゃんぷ	「中1~中3国語を	授業で利用している
	(創育)	ひとつひとつわかりや	副教材
		すく」(学研教育出版)	
数学	のびのびじゃんぷ	「中1~中3数学を	授業で利用している
	(創育)	ひとつひとつわかりや	副教材
		すく」(学研教育出版)	
英語	アルファベット	「中1~中3英語を	授業で利用している
	ローマ字	ひとつひとつわかりや	副教材
	フォニックス	すく」(学研教育出版)	
	(土屋・自作)		
理科		「中1~中3理科を	授業で利用している
		ひとつひとつわかりや	副教材
		すく」(学研教育出版)	
社会		「歴史・地理・公民を	授業で利用している
		ひとつひとつわかりや	副教材
		すく」(学研教育出版)	

1時間に1人~4,5人と利用者数にバラつきがあり、個別で学習が進められるプリントタイプは必要不可欠です。

個別対応の時間を確保することにのみ終始するのではなく、少人数での授業を進める時間を確保するために、できるだけ人数を集める時間も工夫できると学習支援と同様に、コミュニケーションカの支援も行うことができます。

プリントの答え合わせや、単語調べの情報交換などコミュニケーションを必要とする場面は授業の中にいくらでも作り出せるのが、少人数授業ならではの長所です。

②教材の活用

プリントでの学習を進める利点としては

- ・引き出しなどに順番に用意しておけば指示がなくても自分で学習を進めることができる。
- 一日に取り組める枚数など調整しやすい。
- ・ファイルしていくと、1ヶ月あたりに取り組むことの出来た学習量を視覚的にとらえることができ、達成感を得やすい。

7 人の確保

特別支援教室を実際に校内で運用するにあたり、もっとも難しいのが指導に当たる人を確保することです。横浜市教育委員会の「自閉症の手引きII」によると、「担当教諭としては、個別支援教育推進における非常勤講師が指導にあたっていたり、校内による指導体制の工夫が行われていたりします。ボランティアだけでは指導が行えないことに留意する必要があります。」とあります。

今年度の市ヶ尾中学校の取り組みとしては、後者の「校内による指導体制の工夫」によって運営されています。

- ・学習ルーム担当
- 学習支援ボランティア(1名)

2名を中心に授業は運営していますが、理科の先生に理科の実験を行ってもらったり、同時に複数学年いるときにはプリントの解説など当該教科の空き時間の先生にお願いしたり、登下校時間の確認など全職員の協力のもとに運営されています。

特に学習支援ボランティアの方には熱心にご協力頂き、感謝しています。

来年度以降、同じような条件を確実に実現するのは難しい年もあるかもしれませんし、 学習ルームの利用希望数も同じとは限りません。柔軟に人を確保していくには、個別支援 教育推進における非常勤講師、教員志望の学生、個別支援員などを実態に応じて確保し、 個別支援級の先生もしくは、個別支援に精通している教員がコーディネートして教室の運 営にあたるのが、現実的なのではないかと思います。

人の確保については今後も最も大切な、最も難しい問題であることと思われます。また、 校内全体の理解と協力なくしては適切な教室運営は実現しません。

8 評価について

学習ルームを利用するにあたって、保護者が最も不安を口にするのが、「評価」の問題です。評価が不利になるのではないか、それならば一般級になんとしてもいさせたいというのが、保護者の多くの声です。

学習ルームを利用することで成長が期待される部分、コミュニケーション力や基本的な 学習の力を身に付ける必要をしっかりと説明し、それが生きる力につながっていることを 納得していただくには、相当のエネルギーが必要です。

学習ルームを利用していても、可能な限り普通級での授業での評価の対象となるものに 取り組むことが可能な環境を作っていきたいと思っています。

そのためには

- 普通級で行われている授業の把握
- 普通級の授業での提出物などの把握→取り組み→提出
- ・学習ルームでの取り組みを評価に取り入れてもらえるように普通級の教科担当と打ち合わせをする

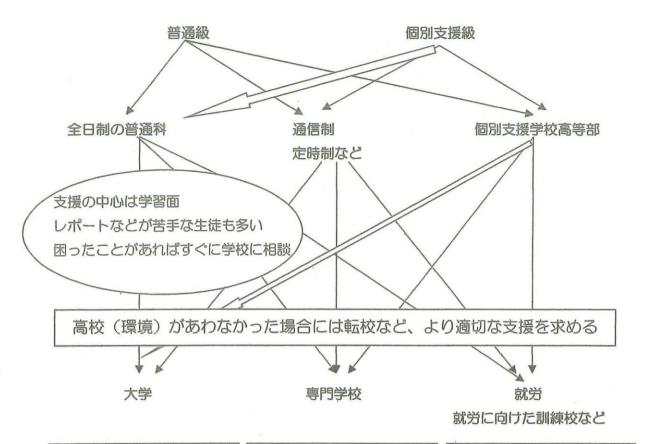
などの取り組みで5教科については対応が可能ですが、今課題となっているのは技能系の 教科の評価についてです。特に実技と提出が一体となっている体育や調理実習などの評価 については学習ルームの活動と評価を一体化させることが難しいのが実情です。

学習ルームで何に取り組み、どんな目標を目指しているのか、今日の取り組みではどんな様子だったのか、保護者にこまめに報告をすることや、じぶんの中での成長を感じてもらうためにも本人との振り返りの面談は欠かせません。評価のみに囚われるのではなく、成長を実感することで前向きに学習ルームの活動に取り組んでもらいたいと思います。

9 進路の展望

学習ルームからの卒業生はまだいませんので、実際の進路についてはご報告できること はありません。けれども、今年度の3年生への進路指導、今後の見通しについてまとめた いと思います。

基本的にその子その子にあった進路であれば、全ての進路先が適切だと言えると思います。普通高校での個別支援はまだ始まったばかりではありますが、特色のある支援を打ち出している学校もあります。



勉強面に心配がない子も対 人関係、生活面での支援が 必要な場合も。 就労に向けてのより、専門 的なスキルを身につけたい 場合に希望する生徒が多 い。 高校卒業後に就労する場合 は療育手帳・精神手帳を取 得して就労するか、一般就 労するか2つの選択肢があ る。

※「高校生の発達障害」佐々木正美・梅永雄二 監修

市ヶ尾中ブロックの荏田西小学校では、かねてより一般級でもない個別支援級でもない「学習ルーム」が存在し、かなりの効果を上げてきていました。そのような良い事例を間近に見ていながら、「どうして中学校になったら、"学習ルーム"での支援体制が取れないんだろう?」と不思議に思っていました。

教職員に聞くと、「評価はどうするんですか?」「教室に居たくないというサボリとどのように区別するのか?」「特別扱いではないか?」「定数のなかで、人員が割けない。これ以上忙しくなるのは勘弁してほしい。」など、ネガティブな意見が噴出しました。

しかし、クラスの中で何人か特別な支援を要する子たちがいるのはどこの学校でも周知 の事実です。

「いろいろとできない理由を考えていても仕方ない。まずはやってみましょう! 市ヶ尾 中学校 610 名の生徒全員が"市ヶ尾中学校に来てよかった。誰もが安心して豊かに生活で きる学校だった"と卒業する時に思ってもらいたい。小学校と違って、中学校は成長過程 の中で難しい部分もあるし、進路も関係してくるので評価の心配もある。しかし、卒業ま でに体得させなければならない義務教育の教育課程を、その子の特性に応じて施すのは中 学校としての義務であるはずです。やってみましょう!」と発信しました。

1年目はなかなか学習ルームの存在が認められず、全教職員のコンセンサスを取るのが難しかったのですが、今年度、2年目にしてググッと支援体制がとれました。不登校の生徒も "居場所"を見つけ、 「あなたたちには私たちがついている」という安心感のもとで毎日学習ルームに登校しては、教室の中で卓球をやったり、工作をしたり、学習をしたり、また "行けない"と思っていた職員室や図書室、また教室まで足を延ばしたりしています。目指すは "教室復帰"です。

学校にたくさんの "居場所" を作ることで、「誰もが安心して豊かに生活できる」市ヶ尾 中学校づくりをさらに深めていきたいと思います。

また、今回このようなレポートを作成させていただいたのは「このような取り組みを市 ヶ尾中学校だけでなくたくさんの中学校でも取り組んでいただきたい!」という土屋由紀 子先生の熱い想いがあるからです。

定数の中で、なかなか人員が割けない現状はありますが、「フォローできない」と担任が フラストレーションをためるよりも、きちんと担当を決めて支援していく体制を作った方 が生徒のためでもあると思います。

なお、いつでも市ヶ尾中の学習ルームは、見学歓迎です。どうか、市ヶ尾中学校の実例 を少しでもご参考にいただき、1人でも多くの生徒に"居場所"が提供できれば…これ程嬉 しいことはありません。

市ヶ尾中学校 校長 平川理恵

<資料>

●学習ルーム利用状況(10月5日現在)

生徒名	全日利用	週1~3コマ	長期休み利用	通信
А	0			
В	0			
Ċ		0 (1 コマ)		
D			0	
Е	0			
F	0			
G				0
Н		O (374)		
1		0 (1 🗆 🔻)		
J				0
K			*	0
L			0	
計	4	3	2	3

●ケース報告

①A さん

3年生。昨年度より不登校または保健室登校。

4月に保健室に登校した時に、学習ルームの話をして本人の了解→保護者の同意という順 に手続きを進めた。

4月、5月は続けて登校しては、疲れて2、3日お休みということもあったが、6月後半からは継続して登校することができている。保健室・図書室などでは、ほかの生徒がいても話をしに行ったりすることもできるが、基本的に教員と話すことが多い。様々な場面で上手くやらなければという意識が強く、自分が苦しくなってしまう印象がある。

前期の中間テストが中学校に入ってからの初めてのテストだったとのこと。緊張していたが、一生懸命勉強して臨んでいた。

前期の長期目標:自分から人とコミュニケーションを取れるようになる。

短期目標:おやすみしたいときには自分で電話をすることができる。

挨拶をしてくれた人に挨拶をかえす。

学習ルームに入ってきた人に自分から挨拶をする。

学習ルームにいる人と必要な会話をすることができる。

前期の目標のポイントは辛い時には自分から SOS を先生に伝えることができるということだった。自分から電話で休むことを伝え、次に登校する予定の日を決めることもできた。自分から挨拶をしたり、コミュニケーションをとろうとしたりできるようになり、目標は達成された。

後期に向けては進路も決まり、次の新しい環境(高校)に慣れるためにも、自分から職員 室を訪ねることができるようにしていきたい。

後期の長期目標:自分から職員室を訪ねて、先生に話しかけることができるようになる。

短期目標:先生と一緒に職員室に提出物を出しに行けるようにする。

自分から職員室を訪ねて提出物を出すことができるようにする。

②B さん

3年生。1年生途中までは登校。その後不登校。

保護者からの要望があり、担任の先生を通して面談の予約があった。登校時間をすらし、 母に校門まで送ってもらって登校。土屋と校門で待ち合わせをして学習ルームへ。帰りは 東門(通用門)から下校していた。

友達と会うことを極端に嫌がっていた。(現在もその状況はあまり変わらない) 同級生と会 うかもしれない状況では登校できない様子だった。

登校し始めてからは休むこともほとんどなく、通級と併用していたが、5月末から毎日学 習ルームに登校するようになった。

不登校の理由は勉強が苦手だったからと説明していた。学習は得意ではないが、字も丁寧 に書き、覚えることも一生懸命取り組むことができる。ただ、時々疲れてしまう日もあり、 そんな時にはうその理由で休むこともあった。

夏休み以降、もとの登校ペースにすぐに戻ることができた。朝も・帰りも時間の途中では あるが、正門から一人で学習ルームまで登下校できるようになった。

前期・後期の長期目標:自分から人とコミュニケーションをとることができる。

短期目標:学習ルームに入ってきた人に挨拶することができる。

休みたい時にはきちんと休みたいと先生に伝えることができる。

③C さん

3年生。入学式以降、ほぼ不登校。

担任の先生からの情報で、母にコンタクト。母と面談をし、週に1回程度の利用を開始。制服を着ることに抵抗があり、小学校で先生に怒られたことが不登校のきっかけとなっているとのことから私服での登校を勧めた。カウンセラーとの面談も並行して開始。

非常にこだわりが強いが、学習に取り組む姿勢は丁寧で堅実。理解をするまでしっかり待

一ルを貼って視覚的な「ごほうび」を設定してみたところ、指示が入りやすくなった。今 はなるべく言葉で目標を伝えるだけにしている。

指摘されると自分がやられたら嫌なことも、友達にしてしまったり、嫌だと言われてもや りつづけてしまったりしている。「やめて」と言われたらやめることが今後の課題となる。

後期長期目標:相手の伝えようとしていることをくみとり、行動にうつす。

短期目標:「〇〇しよう」と先生から提案されたら受け入れてやってみる。

相手から「やめて」と言われたら、今していることをやめることができる。

@J さん

1年生。嫌なことがあると暴力的な行為にでたりしてしまうようになり、医療機関にかかっている。医師の指示に従って、登校刺激はなるべく控えていたが、落ち着いてきたところで、担任の先生を通して学習ルームの課題のやりとりを開始した。担任の先生は手紙も添えているが、手紙の返事は難しいものの、掛け算のプリントは取り組めるようになったので、プリントを仕上げて返信してくれている。

手紙の返事を書くというのは負担になってしまう生徒が多いのでこの方法でのやりとりは効果的かも知れないと思われる。

長期目標については現在検討中

参考文献一覧

〇吉田 友子(2011)「自閉症・アスペルガー症候群『自分のこと』のおしえ方一診断説明・告知マニュアルー」学研教育出版

○佐々木 正美(2008)「思春期のアスペルガー症候群」講談社

〇佐々木 正美 梅永 雄二(2010)「高校生の発達障害」講談社

○横浜市教育委員会 「自閉症の教育の手引き」策定委員(2013)「自閉症にやさしいまち、横浜 自閉症教育の手引き ~認めよう、見つめよう、育もう II~」

学校名 横浜市立市ヶ尾中学校

学校長名 平川 理恵

1 研究テーマ

「自立貢献~15の春にむかって」

小中一貫教育推進の中で、すべての教育活動をキャリア教育の視点で実施し、「いのち」をキーワードに授業をつなぐ取り組みを実践する。

2 研究経過

地域・外部(企業等)からの出前授業などから、教師・保護者だけでない「ナナメの 関係」をつくり、多種多様な人間との関わりを持ったコミュニケーション力のある児童 生徒に育てることに、一定の成果があったと考えられる。

<平成25年度から>



〈平成26年度へ〉

現在行っている活動をキャリア教育の視点で考え、活動を結ぶことによりキャリア教育の流れを作り出し、その流れの中で様々な活動をしていくことで、大きな成果を生み出していきたいと考えた。

(1)全ての教育活動でキャリア教育の実践が必要である。

基礎的・汎用的能力(社会人として必要な力)を育成する。

ア各授業の中で社会人として必要な能力を育成する(教科指導でのキャリア教育) イ地域・社会と連携・協力し社会人として自立していく力を育てる

(勤労観・職業観の育成)

- (2) 小中学校で連携し、「いのち」をキーワードに小1~中3の授業をつなぐことで成 果を高める。
- (3) 小中学校教職員が共通したキャリア教育の意識をもつ。

小中一貫教育推進の中で、すべての教育活動をキャリア教育の視点で実施し、「いのち」をキーワードに授業をつなぐ取り組みを実施する。

全教科にキャリア教育の基礎的、汎用的能力の育成を基本とする視点で全教科の授業を見直し、教員全体の授業力向上をめざす。この視点で論議に基づく授業、ICT機器活用、学校図書館活用、外部人材活用の推進が授業力向上に繋がる。

論議に基づく授業

人間関係形成能力、課題解決能力を意識する

ICT機器の活用

わかる授業へICT機器を活用する

学校図書館活用

調べ学習の充実

外部人材活用

地域・外部人材との繋がりを生かす取り組みの充実